



東生会東京支部だより

東生会東京支部は、兵庫県立姫路東高等学校の卒業生で東京および東京近辺に在住する方を会員とする同窓会「東生会」の支部組織です。ホームページ <http://www.tohseikai-tokyo.org>

第10号

2018年9月発行
編集発行：
東生会東京支部
運営委員会

東京支部結成50周年の節目を越え、新たな気持ちで次なる50年にむけて船出

2017年11月19日（日）、東生会東京支部設立50周年記念の集いが開催されました。3回生から69回生まで年齢差66歳という幅広い層の、関東在住の姫路東高卒業生136名が、学士会館に集いました。今回は32回生でシャンソン・ポップス歌手である山田直毅さんのコンサートで幕を開けました。東生会会長の山野俊二さん、名誉会長の大西壬さん、姫路東高等学校校長の田磨幸夫さんをはじめ、京阪神支部長の小林正受さん、兵庫県東京事務所次長の大角真一さん、姫路市東京事務所の阪口昌弘さん、白城会東京支部副支部長の長野秀幸さんなど多くの来賓の皆様にもご臨席いただき、ご祝辞を賜りました。

1967年（昭和42年）1月15日に開催された東京支部の第一回目の集いには総勢125名が出席。柚木幹夫さん（高1回）、田中祥堯さん（高3回）、大西勉さん（高17回）を中心に、関東在住の東高卒業生を集めて開催に漕ぎつきました。その日から50年。東京支部支部長の清土恒雄さんのご挨拶にもありましたように、3世代がともに集う会に育ちました。毎年参加したくなる「集い」の魅力はどこにあるのでしょうか。

鮮やかによみがえる姫路東高時代の思い出

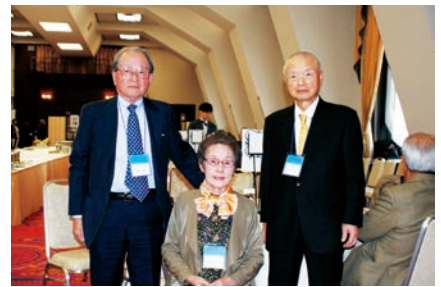
「東高在学中の思い出といえば、運動会。3年生の時にクラス毎にデコレーションを作り、チームワークで盛り上げたことは忘れられない」と語るのは、8回生の久保田貞代さんと大飯敦子さん。本当に楽しかったことがひしひしと伝わるトーンで、つい昨日のこのように話してくださいました。若手の参加者である55回生 粟津和夫さん、崎谷淳さんは、東高在学中は野球部のキャプテンと副キャプテン。「田磨校長に会えることを楽しみに参加しました。東高で田磨監督のもとで野球をしていた時代が人生で一番楽しかった」と先生との再会を満喫されていました。また大学在学中の66回生の山田郁弥さん、池田義晃さんは「同級生と会えることやお世話になった先生にお会いできたのがうれしい。東高を軸に縦のつながりができるのはうれしい」と話してくれました。



[8回生の大飯様、久保田様、木下様、川島様]



[66回生の山田様、池田様、上野様]



[3回生の澤田様、采女様、田中様]

時代は変われども後輩に経験を伝え、先輩から学ぶことの意味

50年前に東生会東京支部設立に奔走された田中祥堯さん（高3回）は、集い当日のスピーチで、終戦後の旧制姫路中学と姫路高等女学校との折半交流に触れられました。「今でも鮮明に覚えています。高等女学校に入学したけれど、戦争で校舎は焼失し、戦後は共学校になる、という激動の時期でした」と、同3回生の采女あやさん。東京で暮らして50年以上。裁判所で書記官として働いたことも東高での学びがあったからこそ、と話されました。大学に進学したばかりの卒業生の姿に目を細め、「時代は変わりますが、平和な時代が続き頑張してほしい」とエールを送ります。

多くの先輩方が関東で活躍されています。平成29年春の叙勲で大西勉さん（高17回）が、秋の叙勲で清土恒雄さん（高18回）がそれぞれ瑞宝重光章受章という慶事が続いたことも設立50年行事に華を添えてくれました。

姫路東高の人气が高く、受験の倍率も1.5倍になっているという昨今、先輩方の経験や学びを若い世代に伝えていき、さらなる活躍を応援できればこれほど素晴らしいことはありません。毎年恒例の中沢幸世さん（高28回）の伴奏で、世代を越えて共に歌う姫路東高校歌はきっと皆さんの心に響いたことでしょう。

